

十四人にして其の三分の二は男生徒なりといふ、男女生徒の數各何程。

3. 某數あり、之に十六分の十五と八分の七とを加ふれば五個となるといふ、某數何程。

4. 姉妹二人の所持金を合すれば $15\frac{1}{8}$ 圓にして其の差 $\frac{4}{5}$ 圓なりといふ、各所持金何程。

5. 甲乙丙の三村出金して一萬一千四百四十圓の小學校を新築せんとし、甲村は其の十一分の八を、乙村は其の十三分の九を出すといふ、丙村の出金何程。

6. 一商人其の資本金の七分の一を失ひし後七十六圓を得、又其の當時の所持金の八分の一を失ひ五十二圓五十錢を得、八百九十六圓を有すといふ、資本金何程。

7. 一事を成すに甲一人なれば二十四日にて終るべく、乙一人なれば三十六日に終るといふ、今甲乙二人共に働かば何日にて成し終るか。

8. 甲乙二人の大工あり、一工事を成すに兩人共に働かば二十四日にて終るべく乙一人なれば、四十日を要すといふ、甲一人なれば何日を要するか。

9. 前問題にて甲乙共に五日間働きたる後、甲一人にて其残りを何日間に成すべきか。

10. 或人若干圓にて宅地を買ひ、之を六百四十八圓に賣りて、買價の五分の一を利せりといふ、買價何程。

11. 或人田地を七千八百七十五圓に賣りて、原價の六分の一を損せりといふ、損金何程。

12. 水槽あり、始め其全量の三分の一を汲み出し、次に又全量の九分の二を汲み出せしに残り九斗六升ありといふ、水の全量何程。

13. 甲乙二人あり、其所有金を合すれば一千六百八十圓にして、乙の所有金は甲の七分の三に當るといふ、各の所有金何程。

14. $5\frac{2}{3}$ 里 + $7\frac{4}{5}$ 里 + 8.765里 の値を諸等數にて表はせ。

15. 或人一本の竿の0.3を黄色にし、0.2を赤色にし、0.15を青色にし、其残りを黒色になせるに其の長さ四尺五寸五分なりといふ、竿の長さ何程。

16. 金若干を甲乙二人に分ちしに、甲には其の二十四分の十一を與へ乙には其の残りを與へしに、乙は甲より百九十二圓多しといふ、金若干とは何程をいふか。

十四人にして其の三分の二は男生徒なりといふ、男女生徒の數各何程。

3. 某數あり、之に十六分の十五と八分の七とを加ふれば五個となるといふ、某數何程。

4. 姉妹二人の所持金を合すれば $15\frac{1}{8}$ 圓にして其の差 $\frac{4}{5}$ 圓なりといふ、各所持金何程。

5. 甲乙丙の三村出金して一萬一千四百四十圓の小學校を新築せんとし、甲村は其の十一分の八を、乙村は其の十三分の九を出すといふ、丙村の出金何程。

6. 一商人其の資本金の七分の一を失ひし後七十六圓を得、又其の當時の所持金の八分の一を失ひ五十二圓五十錢を得、八百九十六圓を有すといふ、資本金何程。

7. 一事を成すに甲一人なれば二十四日にて終るべく、乙一人なれば三十六日に終るといふ、今甲乙二人共に働かば何日に成し終るか。

8. 甲乙二人の大工あり、一工事を成すに兩人共に働かば二十四日にて終るべく乙一人なれば、四十日を要すといふ、甲一人なれば何日を要するか。

9. 前問題にて甲乙共に五日間働きたる後、甲一人にて其残りを何日間に成すべきか。

10. 或人若干圓にて宅地を買ひ、之を六百四十八圓に賣りて、買價の五分の一を利せりといふ、買價何程。

11. 或人田地を七千八百七十五圓に賣りて、原價の六分の一を損せりといふ、損金何程。

12. 水槽あり、始め其全量の三分の一を汲み出し、次に又全量の九分の二を汲み出せしに残り九斗六升ありといふ、水の全量何程。

13. 甲乙二人あり、其所有金を合すれば一千六百八十圓にして、乙の所有金は甲の七分の三に當るといふ、各の所有金何程。

14. $5\frac{2}{3}$ 里 + $7\frac{4}{5}$ 里 + 8.765里の値を諸等數にて表はせ。

15. 或人一本の竿の0.3を黄色にし、0.2を赤色にし、0.15を青色にし、其残りを黒色になせるに其の長さ四尺五寸五分なりといふ、竿の長さ何程。

16. 金若干を甲乙二人に分ちしに、甲には其の二十四分の十一を與へ乙には其の残りを與へしに、乙は甲より百九十二圓多しといふ、金若干とは何程をいふか。

17. 水槽あり、三管を備ふ、甲管にて水を注げば五時間に満つべく、乙管にては八時間に満つべく、丙管にては全水を十二時間に涸らすといふ、今空槽に甲乙二管にて水を注入すると同時に丙管にて之を出時は何時間にて水槽に満つるか。

18. 水槽あり、其の満水の三分の一を汲み出し、更に三斗を汲み出したるに尙全槽の半分を残せりといふ、全槽の辨目何程。

19. 或人一頭五十六圓七分の二の牛若干頭を買ひ、之を一頭に付き七圓三分の一の利を得て賣りたるに、五百八圓二十一分の二十を得たりといふ、牛の頭數何程。

20. $(2.0155 + 3.0012 \div 9.805) \times (0.271 + 0.528)$ を計算せよ。

21. 或人所持金の五分の一にて反物を買ひ、其残りの四分の三にて書籍を買ひ、次に残りの三分の一にて机を買ひ、又次に残りの十六分の一にて雑品を買ひしに、殘金僅に八圓なりといふ、始めの所持金何程。

22. 或人若干圓の資本にて商賣を始めしに、初月に資本金の四分の一を損し、第二月に初めの資本の

三分の二を利し、第三月には初めの資本の八分の三を利し、現在の所有金四百三十圓ありといふ、最初の資本金何程。

23. 甲乙二童相距ること七町三間なり、今兩端より相向て同時に歩み始めしに、一分時に甲は十一間四分の一、乙は七間五分の一の速さなりといふ、出立後何分にて二人相會するか、又各何程を歩みしか。

24. 木綿若干反を買ふに、一反の價平均 0.63 圓なり、而して一反に付七十錢とすれば、總代價は二圓八十錢多くなるといふ、然る時は反數何程。

25. 或人の年齢の八分の七は來年の年齢より六歳少なしといふ、此人の年齢を問ふ。

26. 晝の永さ夜の永さの八分の七なる時は晝の永さ何程なるか。

27. 甲乙二人にては三十六日、甲丙二人にては二十四日、乙丙二人にては十八日に成すべき一事あり、三人共に働かば何日にて何るか。

28. 或人所有金の三分の一より二十圓多く費せしに、残りは元の所有金の十五分の四より十五圓多しといふ、最初の所有金何程。

29. 米若干を甲乙丙の三人に分つに、甲は全体の

三十分の十三を得、乙は全体の三十分の十一を得、丙は其餘を得たり、而して丙の所得は乙の所得よりも七斗五升少なかりしといふ、全体の米何程。

30. 鶴龜合せて八十頭あり、而して其の足數を平均すれば一頭に付二本八分の三なりといふ、各幾頭なるか。

31. 夫婦の年齢の和一百なり、二年以前には婦の年齢は夫の年齢の十七分の十五なりといふ、各の年齢何程。

32. 二輪の自轉車あり、小輪の周圍は七尺八分の七、大輪の周圍は一丈十六分の十一なり、今二輪の二點相對する時、次に同點の相對する迄には何程の距離を進むべきか。又各何廻轉すべきか。

33. 甲乙丙の三人一湖水を一周するに甲は二時三分の一、乙は二時六分の五、丙は二時八分の七を要すといふ、今三人同所より同時に立出でて同方向に周ぐる時は何時間目に再び出立點にて相會するか。

33. 長さ二丈九分の五、六丈十八分の七、十一丈二分の一、十九丈十分の一の竿あり、此の四竿を残りなく測り得べき最長の繩の長さを求む。

上卷終

明治三十四年二月十九日發行
明治三十四年二月五日印刷

定價金六拾錢
女子算術上卷

編者 原田長松

發行刷兼者

吉川半
一丁目十二番地
東京市京橋區南傳馬町

印刷所

吉川印刷工場
東京市京橋區柳町五番地



中華民國三十三年三月三日

財政部

稅務司

稅務司

稅務司



8
163

163

053396-001-9

87-163

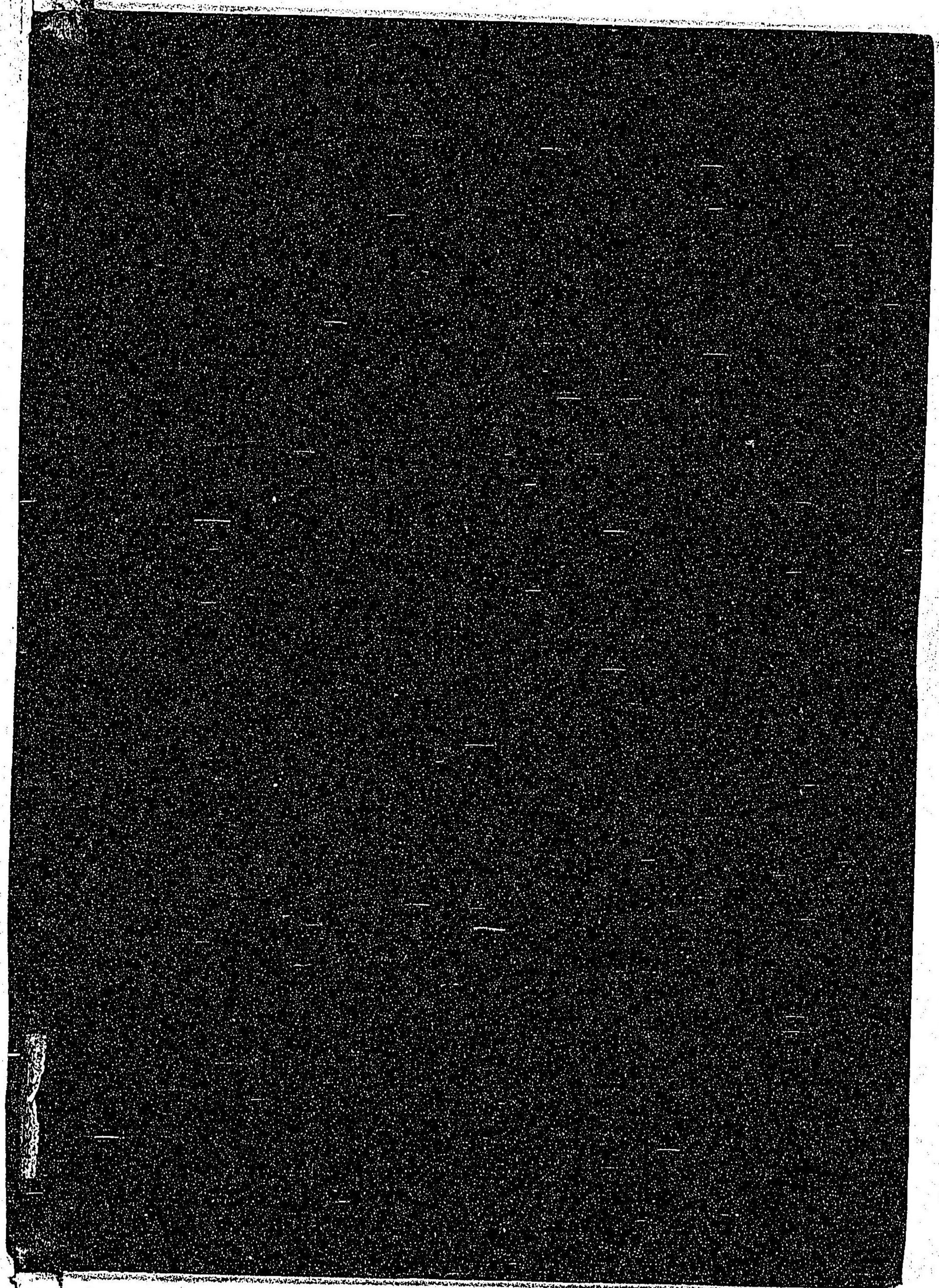
算術教科書 (女子教科)

原田 長松 / 編

上

M34

CAC-0274



87
\$11
163